

# 第1回 地域共生社会推進全国サミット in ながくて まざって暮らす見学会のご案内 (3)

プレイベントとして、『まざって暮らす』をテーマに、見学会を企画しました。  
この機会に、ぜひご参加ください。

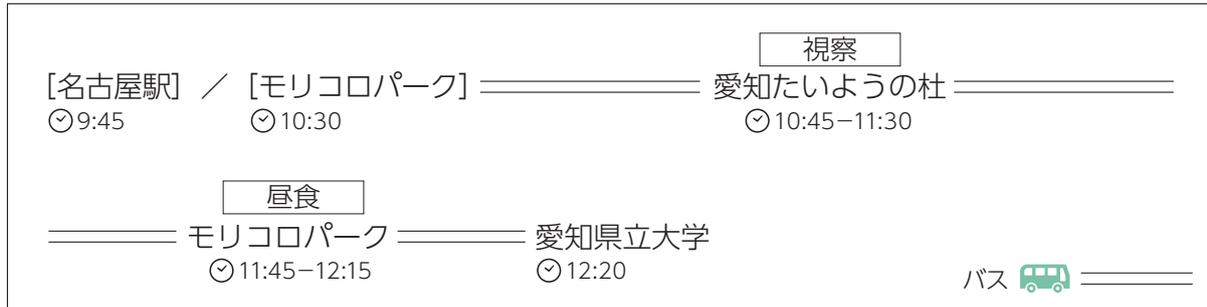
出発日 2018年10月18日(木)

最少催行人員 15名

募集人員 25名

旅行代金 お一人様あたり 2,500円(昼食付)

添乗員 同行します。



## 愛知たいようの杜

社会福祉法人愛知たいようの杜は、昭和61年に、吉田一平氏(現長久手市長)により設立された。設立の契機は、昭和56年の学校法人吉田学園の設立と「愛知たいよう幼稚園」の開設である。同氏の郷里は、長久手市内の、名古屋市名東区猪高緑地公園に隣接した広大な緑に囲まれた地域であるが、その一方で、名古屋まで電車で約30分と立地も良く、また、愛知博等を背景に、区画整理事業等による開発が始まったことで、ふるさとの風景が失われつつあった。危機感を高めた吉田氏は、当時15年間勤務していた名古屋市内の商社を退職し、幼稚園を設立し、子どもらしい子どもでいられる時を過ごしながら、自然の仲間であることを知り、自然の四季を感じながらゆっくり暮らし、自然を相手に思い切りあそぶことが出来るよう環境を提供するとともに、自然と共存出来るコミュニティづくりを進めていった。

幼稚園に続き、昭和62年には、社会福祉法人愛知たいようの杜を設立し、また、同年「愛知たいよう幼稚園」に近接する約1万坪の雑木林の中に、特別養護老人ホーム「愛知たいようの杜」とショートステイ「愛知たいようの杜」をオープンさせた。以降、この雑木林を拠点に、平成10年には訪問看護ステーション「ふれあい」を、平成13年にはケアハウスゴジカラ村・雑木林館とデイサービスセンター「ゴジカラ村」、平成17年には、「愛知総合看護福祉専門学校(もりのがくえん)」がオープンした。敷地内には、数百年前の古民家も3軒移築され、交流スペース等として機能しているほか、カフェや、トレーラーハウスの工房等も立地し、広大な雑木林の中に、子どもから高齢者までの多世代が交流する「ゴジカラ村」が形成され、学校法人吉田学園や社会福祉法人、(株)ゴジカラ村役場等により管理運営がなされている。

ゴジカラ村の語源は、「5時から」である。サラリーマンにとって、就業時間が終わった5時から、誰にも管理されず、時間にしばられず、のんびり過ごす時間帯として心待ちにするものであり、そうしたメッセージを込めて付けられたものである。



イメージ写真